KJS

京都社会学年報

第 4 号
1996年12月

《論　　文》

外的な力と内的な力
——デュルケームの集合力概念の再検討を通して——　岡崎　宏樹

郡集行動研究の視角
——創発規範論の理論的展開とその経験的研究にとっての意味——　吉田　竜司

主体形成とイデオロギーの理論—主体化の諸形態——　川田　耕

葬送儀礼に現れる山村の近隣関係
——愛知県東加茂郡旭町大字杉本・大字東加塩の事例——　呉　知恩

嗜好の構成—薬物使用と社会制御——　佐藤　哲彦

日本宗教の文化的特性——近代化と呪術的志向性——　沼尻　正之

アメニティとエコロジー——「環境」概念の検討——　塚本　利幸

農山村におけるコミュニケーションとインターネット
——〈地域社会〉と〈仮想社会〉——　野崎　賢也

現代大学生における「教養」の計量的分析　筒井　清忠・吉田　純・水垣源太郎・佐藤　哲彦

社会科学の臨界点　松浦　雄介

《書評論文》

構築主義論争における研究者主観をめぐる構造的ジレンマ
Gale Miller and James A. Holstein(eds.),
Constructionist Controversies : Issues in Social Problems Theory　高山龍太郎

進化論/聖書解釈/集団的記憶
——南アフリカ人種主義の基底的合理性——
Saul Dubow, *Scientific Racism in modern South Africa*　阿部　利洋

カルチュラル・スタディーズの挑戦
——ポストモダン社会におけるポピュラー文化研究——
Angela McRobbie, *Postmodernism and Popular Culture*　鈴木　幹子

第2電子メディア世代のコミュニケーションと「主体」
——インターネットとポストモダニティー——
Mark Poster, *The Second Media Age*　村上　浩介

マクルーハンの近代再考
Judith Stamps, *Unthinking Modernity : Innis, McLuhan, and the Frankfurt School*　宮武実知子

オルタナティブとしてのエコロジカル・デモクラシー
Roy Morrison, *Ecological Democracy*　石田あゆう

《特別寄稿》

THE THEORY AND THE DISCOURSES OF GLOBALIZATION　Roland Robertson

4　京都大学文学部社会学研究室

［編集規定］

1．本誌は京都大学文学部社会学研究室の機関誌として、年１回発行する。

2．1）本誌の編集は、「京都社会学年報」編集委員会の責任のもとに行われる。

　2）編集委員会は本研究室の教官および大学院生代表者により構成される。

　3）編集委員会に関するその他の細目は別に定める。

3．本誌には、研究論文のほかに、書評論文、資料等の欄を設ける。

4．1）本誌の投稿者は、原則として京都大学文学部社会学研究室に所属する専任および非常勤の教官、ならびに大学院生・研修員、研究生とする。

　2）投稿に関する細目は別に定める。

5．論文等は、未公刊のものに限る。

6．論文等は、編集委員会によって審査され、その掲載について検討される。

7．1）論文等の原稿は、所定の執筆要項に準拠したものに限る。

　2）執筆要項は別に定める。

京都社会学年報　第４号

京都大学文学部社会学研究室　1996年12月

目　次

〈論　文〉

外的な力と内的な力
——デュルケームの集合力概念の再検討を通して——　岡崎　宏樹　1

群集行動研究の視角
——創発規範論の理論的展開とその経験的研究にとっての意味——　吉田　竜司　21

主体形成とイデオロギーの理論——主体化の諸形態——　川田　耕　41

葬送儀礼に現れる山村の近隣関係
——愛知県東加茂郡旭町大字杉本・大字東加塩の事例——　呉　知恩　57

嗜好の構成——薬物使用と社会制御——　佐藤　哲彦　85

日本宗教の文化的特性——近代化と呪術的志向性——　沼尻　正之　109

アメニティとエコロジー——「環境」概念の検討——　塚本　利幸　125

農山村におけるコミュニケーションとインターネット
——地域社会とバーチャル・コミュニティ——　野崎　賢也　147

現代大学生における「教養」の計量的分析
筒井清忠・吉田　純・水垣源太郎・佐藤哲彦　163

社会科学の臨界点　松浦　雄介　177

〈書評論文〉

構築主義論争における研究者主観をめぐる構造的ジレンマ
Gale Miller and James A. Holstein(eds.),
Constructionist Controversies : Issues in Social Problems Theory　高山龍太郎　189

進化論／聖書解釈／集団的記憶
——南アフリカ人種主義の基底的合理性——
Saul Dubow, *Scientific Racism in modern South Africa*　阿部　利洋　197

カルチュラル・スタディーズの挑戦
——ポストモダン社会におけるポピュラー文化研究——
Angela McRobbie, *Postmodernism and Popular Culture*　鈴木　幹子　205

第２電子メディア世代のコミュニケーションと「主体」
——インターネットとポストモダニティー——
Mark Poster, *The Second Media Age*　村上　浩介　213

マクルーハンの近代再考
Judith Stamps, *Unthinking Modernity :*
Innis, McLuhan, and the Frankfurt School　宮武実知子　221

オルタナティブとしてのエコロジカル・デモクラシー
Roy Morrison, *Ecological Democracy*　石田あゆう　227

〈特別寄稿〉

THE THEORY AND THE DISCOURSES OF GLOBALIZATION
Roland Robertson　233

＜執筆者紹介＞(掲載順)

インターネットが利用可能な方は、社会学研究室ホームページをご参照ください。
アドレスは http://www.socio.kyoto-u.ac.jp/ です。

岡崎　宏樹	博士後期課程３年次	理論社会学、宗教社会学。G.バタイユの理論研究（「交流の共同体と合一の共同体――バタイユとジラールの供犠論の比較から――」『ソシオロジ』122号、1995年）。
吉田　竜司	博士後期課程３年次・日本学術振興会特別研究員	逸脱行動論および群集行動論。とくに釜ヶ崎暴動の事例分析をとおして、群集行動の動的過程の解明をめざす（「群集行動と日常性――釜ヶ崎第一次暴動を事例として」『ソシオロジ』121号、1994年、「農業政策と『環境』――戦後農政における環境関連事業への対応を通して」滋賀県琵琶湖研究所委託研究報告書『河川管理における環境保全型社会システムの形成過程の研究』、1994年）。1996年10月より富山大学経済学部助手。
川田　　耕	博士後期課程３年次	知識社会学。イデオロギー論、主体論、身体論。近世および近代の日本社会においての道徳的言説と主体形成の歴史（「道徳と主体――江戸後期から明治期にかけての通俗道徳――」『ソシオロジ』121号、1994年、「主体化について――超越的意識による自己言及とイデオロギー――」『ソシオロジ』125号、1996年）。
呉　　知恩	研修員	宗教社会学・家族社会学。とくに女性問題を中心とする日韓比較の経験的・理論的研究（「韓国のカトリック『教友村』共同体における女性の地位――全羅北道天呼洞での事例研究」『ソシオロジ』121号、1994年、「祖先崇拝儀礼と女性の役割――韓国のーカトリック「教友村」を事例として――」『京都社会学年報』2号、1994年）。
佐藤　哲彦	博士後期課程２年次	逸脱の社会学。とくに相互作用論的パースペクティブからの薬物使用者研究ならびに薬物政策史研究（「リンドスミスによる麻薬研究の二つの位相――相互作用論的麻薬使用研究の射程――」『京都社会学年報』3号、1995年、「日本における覚せい剤犯罪の創出――「逸脱の医療化」論の視角から」『ソシオロジ』125号、1996年）。 E-mail: aki@socio.kyoto-u.ac.jp
沼尻　正之	研修員・日本学術振興会特別研究員	社会学理論・宗教社会学。近代化過程における宗教の変容を文化社会学的観点から考察するとともに、ドイツ社会論をも展開。93-94年ハイデルベルク大学に留学（「マックス・ウェーバーの比較歴史社会学的方法――宗教社会学と方法」『ソシオロジ』116号、1993年、「近代社会における『宗教』の位置――世俗化論・再考」『ソシオロジ』123号、1995年）。E-mail: nmasa@socio.kyoto-u.ac.jp
塚本　利幸	研修員	社会学理論とくにシュッツの生活世界論の理論的研究およびこの視点と地域の環境問題との接合（「農業用配水システムの変遷と生活経験――常楽寺地区の水との付き合い――」『京都社会学年報』1号、1994年）。
野崎　賢也	博士後期課程２年次	社会意識論。とくに近代日本の農村社会のエートス・農民意識に関する歴史社会学的研究、および高度成長期以降から現代までの農民意識・農村社会の変動に関しての調査・研究をすすめる。（「エスノグラフィー生産技術の解剖」

		『京都社会学年報』1号、1994年、「農民と「近代」――戦前期農村社会における農民意識の重層――」『京都社会学年報』3号、1995年）。E-mail: kenya@socio.kyoto-u.ac.jp
筒井　清忠	教授	歴史社会学・エリートと大衆の文化・ナショナリズム論。近年は特に文化や社会意識の領域に関する日本とヨーロッパなどの諸外国との比較歴史社会学的研究に重点を置いている（『「近代日本」の歴史社会学』木鐘社、1990年、『日本型「教養」の運命』岩波書店、1995年）。
吉田　　純	助手	理論社会学・社会学説史・コミュニケーション論。アドルノ、ハーバーマスらフランクフルト学派の学説史的研究の一方、コンピュータ・コミュニケーションの理論的・経験的研究にアプローチする（「批判としてのモデルネ論――ハーバーマスからアドルノへの視座転換」『ソシオロジ』104号、1989年、「〈仮想社会〉のコミュニケーション―インターネットをめぐる社会学的一考察――」『京都社会学年報』3号、1995年）。E-mail:jun@socio.kyoto-u.ac.jp
水垣源太郎	研修員	宗教社会学とくにウェーバーを中心とした理論研究およびその視点を用いた経験的研究（「カリスマ的関係について――非対称的関係の転倒――」『京都社会学年報』1号1994年、「現代日本の一宗教集団におけるカリスマ崇拝の構造と条件」『ソシオロジ』124号、1995年）。1996年10月より奈良女子大学文学部助手。
松浦　雄介	修士課程１年次	社会学理論・社会科学論。社会研究における知識・方法・事実等の問題をめぐる認識論的・存在論的検討。
高山龍太郎	修士課程２年次	社会問題論。問題状況の中で生活する人々の感覚に根ざした経験的研究・理論構築をめざす。
阿部　利洋	修士課程１年次	アフリカ地域研究。とくに南アフリカ共和国における人種間の対立・暴力・紛争などの分析を通じたエスニック・アイデンティティに関する考察。
鈴木　幹子	修士課程１年次	文化社会学。とくに日本の伝統文化のあり方やその形成過程に関する研究。また、家元制度の問題に関心がある。
村上　浩介	修士課程１年次	コミュニケーション論。電子メディア環境で典型的に見られる「ハマり」「社交」といったコミュニケーションの感情社会学的研究。
宮武実知子	修士課程１年次	近代ドイツの政治文化の社会学、およびメディアに関する歴史社会学。
石田あゆう	修士課程１年次	歴史社会学・環境社会学。近代日本におけるエコロジーに関する社会学的研究。

京都社会学年報　第４号

1996年12月25日発行

編　集　京都社会学年報編集委員会
（編集代表　宝月　誠）

発　行　京都大学文学部社会学研究室
〒606-01　京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2751・2749　FAX 075-753-2836

製　作　㈱北斗プリント社
〒606　京都市左京区下鴨高木町38の2
TEL 075-791-6125

《 Editorial Regulations》

1. This journal is an annual publication of the Department of Sociology, Faculty of Letters, Kyoto University, Kyoto, Japan.
2. i) This jounal is edited by the Editorial Board of the Kyoto Journal of Sociology.
   ii) The Board consists of the professors and postgraduates of the Sociology Department.
   iii) Details of the regulations of the Board are specially provided.
3. Contributions to this journal may be in the form of articles, review essays, etc.
4. i) Contributors are generally limited to professors and postgraduates of the Department of Sociology, Faculty of Letters, Kyoto University.
   ii) Guidelines for contributors are specially provided.
5. Contributions are limited to previously unpublished articles.
6. Review of contributions is carried out by the Editorial Board.
7. i) Manuscripts submitted for review must follow the writing guidelines for contributors.
   ii) The writing guidelines for contributors are specially provided.

KJS

Kyoto Journal of Sociology

No. 4 December 1996

ARTICLES

External Forece and Internal Force:
Reconsideration of Durkheim's Theory of the Collective Force — Hiroki OKAZAKI

The 'No Real Difference Approach' to the Study of Crowd Behavior:
Controversies over Emergent Norm Approach and
Their Implication to the Empirical Study of Crowd Behavior — Ryuji YOSHIDA

Ideology and Patterns of subjectivization — Kou KAWATA

Neighborhood Relation of a Mountain Village Shown in Funeral Ceremony:
A case study of Sugimoto and Higashikashio village,
Asahi town, Higashikamo county, and Aichi prefecture — Jee eun OH

Constructing Tastes : Drug Using and Social Control — Akihiko SATO

The Cultural Characteristic of Japanese Religion:
Modernization and the Magical Thinking — Masayuki NUMAJIRI

Amenities and Ecology : Study of the Concept 'Kankyou' — Toshiyuki TSUKAMOTO

Communication and the Internet in Japanese Rural Communities:
'Local Community' and 'Virtual Community' — Kenya NOZAKI

A Quantitative Study on the Role and Meaning of Liberal Education among University Students
Kiyotada TSUTSUI, Jun YOSHIDA, Gentaro MIZUGAKI and Akihiko SATO

The Critical Point of Social Science — Yusuke MATSUURA

REVIEW ESSAYS

Gale Miller and James A. Holstein (eds.),
Constructionist Controversies: Issues in Social Problems Theory. — Ryutaro TAKAYAMA

Saul Dubow, *Scientific Racism in modern South Africa.* — Toshihiro ABE

Angela McRobbie, *Postmodernism and Popular Culture.* — Mikiko SUZUKI

Mark Poster, *The Second Media Age.* — Kousuke MURAKAMI

Judith Stamps, *Unthinking Modernity:Innis, McLuhan,and the Frankfurt School.* — Michiko MIYATAKE

Roy Morrison, *Ecological Democracy.* — Ayuu ISHIDA

SPECIAL CONTRIBUTION

THE THEORY AND THE DISCOURSES OF GLOBALIZATION — Roland ROBERTSON

Department of Sociology, Faculty of Letters,
Kyoto University, Kyoto, 606-01, Japan

4